

乗円寺 寺報



2024年 7月

お盆号

寺報から訊く 寺報No42

7月お盆のお知らせ

13日(土)

14日(日) 15日(月)

この期間はお寺を開放し
待機しておりますので
お墓・納骨堂の
お参りに、お越し下さい。

7時～20時迄

現金領収証書		第 64 号
令和 6 年度	収入歳出外現金	
納 入	石川県金沢市石引1丁目4-20	
	宗教法人 乗円寺 様	
金 額	¥ 1 2 0 0 0 0	
ただし、石川県令和6年能登半島地震災害義援金として 上記の金額を領収しました。		
令和6年4月18日		
所得税法第78条第2項第1号 法人税法第37条第3項第1号 地方税法第37条の2第1項第1号 地方税法第314条の7第1項第1号 にかかるとる寄附金に該当します		
石川県会計管理者 中村 一 啓		



支援金・お布施合計は十二万円となり、代表して石川県庁に提出してきました。能登半島の復興をこれからも、心より応援しております。

●能登半島地震 物故者総追悼法要&チャリティーコンサートのお礼●
今年のお盆の十三日〜十五日は、土曜・日曜・祝日となります。ご家族ともお参りしやすいのではないかなと思っておりますので、お誘い合わせの上お参り下さい。
三月二十日(水)乗円寺、本堂・奥座敷にて、能登半島地震 物故者総追悼法要と医師の北山吉明さんが率いる「チームおせっかい」のチャリティーコンサートが行われました。当日は大雨となりましたが、お越しいただいた方、本当にありがとうございます。また、能登半島地震のチャリティーということで、支援金・お布施をお届けいただいた方、お心を寄せていただいた方、あらためまして感謝申し上げます。
お寺でコンサートをしたのは初めてでしたが、普段とは違った雰囲気の中、懐かしい昭和の歌謡曲を聞くことが出来ました。テノール歌手の北山先生の他、ソプラノ歌手の直江学美さん、ピアノ奏者の福島良子さんの迫力ある歌声、演奏が座敷に響き渡りました。とても勿体ないように思いましたが、一緒に参加した方と、楽しい時間を過ごすことが出来て、良い思い出となりました。

早いもので、今年も半分が終わり、7月となります。暑い日が続いておりますが、皆さま方はいかがお過ごしでしょうか。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、私は全治三か月、左足首靭帯損傷の怪我がやまと治ってききました。まだ違和感がありますが、正座も出来るようになってきました。僧侶として、正座出来ないことは致命的で、若い頃に比べて治りが遅くヤキモキしておりました。お互いに、不注意での怪我、体調管理、十分注意していきましょう。

住職の独り言と共命鳥

最近、若い方がお寺に来る機会が減っています。お寺でご家族揃ってご法事をする時は、せっかくなのでお寺の本堂、佛様、その荘厳(飾り付け)などを見てもらうようにしています。今の当寺の本堂は約百年前に建立されました。そこにいらっしゃる佛様は約五十年前からいらっしやいます。歴史を感じながら、普段なかなかふれることのない、佛様のきれいで、不思議な世界を見て、お参りしてもらうことは意味のあることではないかなと思いついて聞いています。少し説明すると、興味を持って聞いてくれる若い方もいらっしやいます。

浄土真宗のお寺は、御本尊の阿弥陀如来様の極楽浄土の世界に触れることが出来ます。御経「阿弥陀経」には、その極楽浄土の様子が描かれています。様々な佛様が住まわれる清らかな世界を浄土、その中でも阿弥陀如来の浄土を極楽浄土といえます。その場所には宝の池があつて、七宝(金、銀、瑠璃【青い宝石】、水晶、つやのある貝、赤い真珠)で出来た建物やたくさんのお花が生えています。綺麗なたくさんのお花が咲いて、さまざまなたまもいて、きれいな音楽を奏で光り輝く世界です。当寺の本堂の上には金箔の天女の欄間があり、とても鮮やかな輝きを放っています。この世界には、六種類の鳥がいて、その一つの鳥に、共命鳥(ぐみょうちよう)と呼ばれる鳥がいます。体が一つで頭が二つある鳥です。この鳥にはいろいろな逸話があります。体は一つだけれども頭が二つあるから、それぞれ違うことを考えます。お互いを思いやり、助け合っていれば、共存して生きていきます。ただ、互いを信じようとせず、自分のことばかりを考えて生きると、怒り、妬みが生まれ、二つの頭が争い合い、傷つけ合うこととなり、共にいのちを失ってしまう話です。

共命鳥は二つの頭、一つの体の問題ですが、私たちの世界でも似た問題があると思います。家族、職場、人の集まりでは、思いやることの出来ないことや、信じていることが出来ないことから起こる問題があります。その場、その場で、複雑にいろいろなことが重なり、難しくなっている問題もあります。私も思い起こすと、恥ずかしい経験や、交わることが出来ずに離れていった方との苦い思い出もあります。今から十五年程前のお寺とは違う仕事の雑誌を作る営業をしていた時に、ある同僚を信じていることが出来ず、責めてしまったり、貶したりしたことがあります。言い訳ばかりして、サボってばかりいることが我慢ならなかったのです。上司にそのことを打ち明けた時に、「気持ちには分かる、でもあいつを信じよう。いつか必ずチームを助け、支えてくれるメンバーになる」と説得されたことがありました。その上司は、とても優しい方で、信じていることを最も大切にされた方でした。その時は納得出来ませんでした。時が経つにつれ本人も大きく変わり、本音で話し合ってきたので私との関係も変わりました。そして、チームを、私を支えてくれるかけがえない仲間になってくれたことがあります。今でもかけがえない友人で、公私ともにサポートしてもらっています。

「ひとつの命を共に生きている」「互いに支え合って生きている」は佛様のお浄土から、共命鳥からのメッセージだと思えます。いろいろと悩むことあり、うまくいかないことも多い人生ですが、時にこの綺麗な世界に、ただ手を合わせてお参りすることは意味のあることかと思えます。もうすぐお盆です。お盆にお寺に来たときは、ぜひ本堂に入って、佛様の世界、綺麗な世界にお参り下さい。



(住職)